

国道298号の道路・交通状況

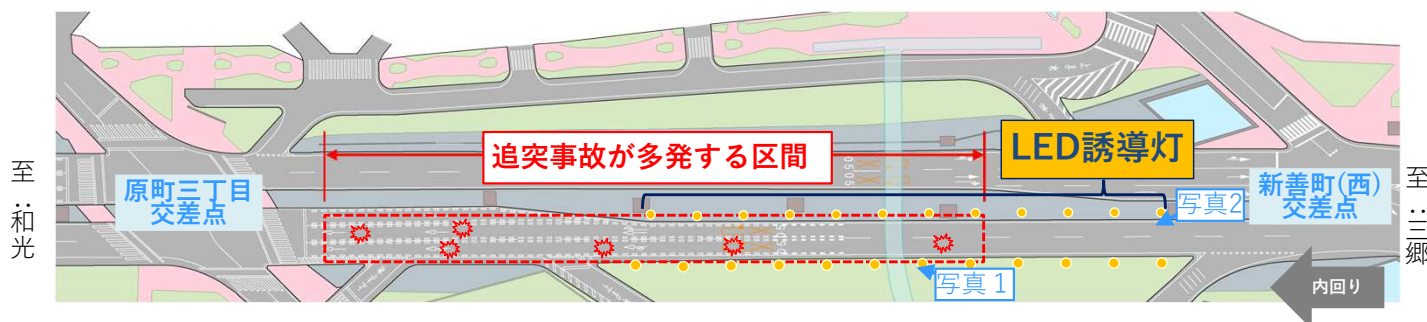
2018年6月に千葉外環が開通して以降、国道298号の川口市や草加市を通過する区間の交通量が約1万台増加しています。それに伴い、**渋滞が顕在化し、単路部における渋滞後尾での追突事故が多発している**状況にあります。

国道298号は、外環専用部や遮音壁に囲まれていることから昼間でも暗い状況です。そのため、一般的な注意喚起看板等の対策は見えづらく、**ドライバーにより注意を促す新たな対策**が必要でした。

箇所概要と実験概要

今回実験を行った新善町西交差点～原町三丁目交差点間（内回り）は、交通量の増加により、以前に比べて渋滞がより慢性化しており、**昼間の大半の時間帯で道路が混雑**している状況です。

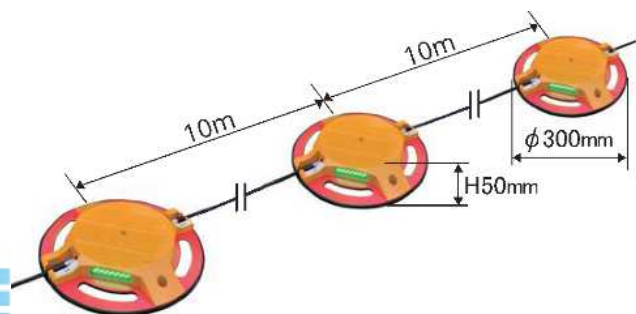
昼間でも非常に暗く、渋滞末尾の停止車両が見えづらことから、**急ブレーキが多く発生**しています。



暗くてもドライバーが視認しやすく、渋滞末尾の車両に自然と視線を誘導できるようにLED誘導灯を設置する実験を行いました。

実験終了後は、通行したドライバーを対象としたWEBアンケートにより、最も効果的であると考えられる発光色、発行パターンについて意見を聴取し、**設置の有効性を評価しました。**

- 実験区間：国道298号 新善町西交差点～原町三丁目交差点間（内回り）
- 実験期間：2021年12月2日～22日（以下に示す3パターンの発光色別に各7日実施）
- 機器本体（LED誘導灯）と発光色



調査目的

WEBアンケート調査は、実験中に実験区間を通行したドライバーを対象として、**LED誘導灯の認知度、発光色や発光パターンの違いによる効果や意識の相違を把握し、対策の有用性を確認**することを目的として実施しました。

調査結果

<アンケート調査概要>

調査方法 : WEBアンケート調査
調査対象 (モニター数) : 400サンプル

実施時期 : 令和4年1月上旬

設問①：通行したときに誘導灯が点灯していることに気づきましたか？

実験期間に通行したとき、**56%**の方がLEDライトが設置されていることに気が付いたと回答しました。

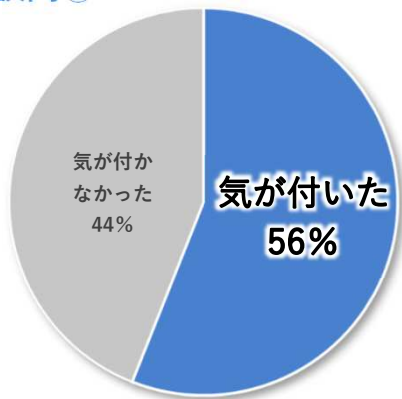
設問②：LED誘導灯は追突事故の抑制に効果があると思いますか？

85%の方が追突事故対策に一定の効果があると回答しました。

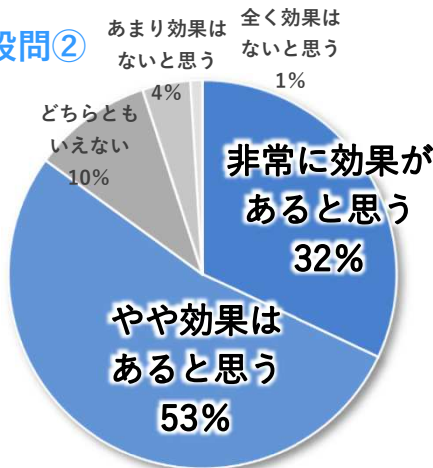
設問③：どの発光色が最も効果があると感じましたか？ (WEBアンケート上での動画の視聴により回答)

最も効果があると回答したパターンは、**緑・青パターンが40%を占めましたが、黄・赤が29%、赤パターンが24%と大きな差はない**と回答しました。

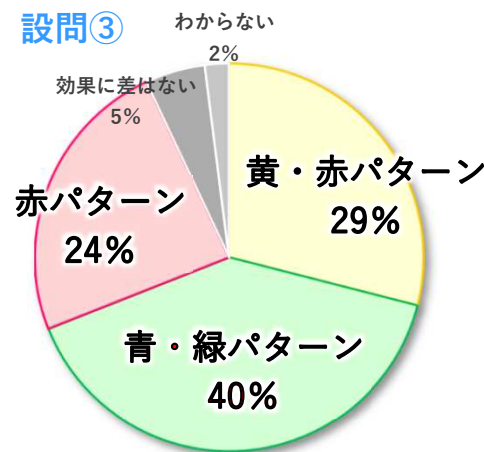
設問①



設問②



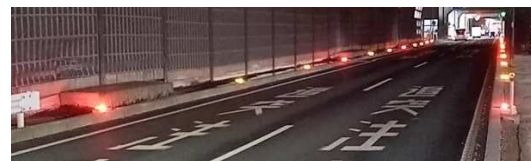
設問③



設問④：設問③で選択した発光色が最も効果があると回答した理由を教えてください。

黄・赤パターン

- ・信号機で慣れている注意喚起の色と同じであるから
- ・黄色と赤はどちらも注意を啓発する色だから
- ・迫ってくる様に感じるから



緑・青パターン

- ・通常の道路では見られない珍しい色なので注意をひく
- ・ブレーキランプと異なる色で注意が向きやすい
- ・遠くからでも確認しやすい



赤パターン

- ・赤 = 危険や注意のイメージがある
- ・2色より1色のほうがわかりやすく感じる。
- ・危険箇所や工事を連想させ、慎重になる



今後の予定

LEDライトについて、85%もの方が一定の効果があると回答いただけたことから、今後はLEDライトの実用化を進めるとともに、類似区間へ対策を展開していきます。